

全ては子どもたちのために

壁面に掲示してご活用ください

共に歩まん

令和3年9月22日発行

第12号

長野県中信教育事務所

シリーズ『指導と評価の一体化』～算数・数学編「思考・判断・表現」～

算数・数学科における「思考・判断・表現」の評価について、「令和3年度（2021年度）教育課程編成・学習指導の基本」（通称：青本）p34～35にも掲載されている。単元名「資料の調べ方」（D「データの活用」(1)データの考察）から紹介いたします。

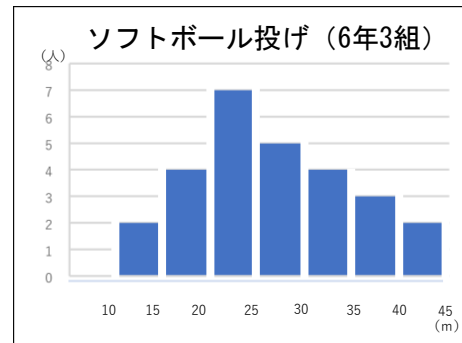
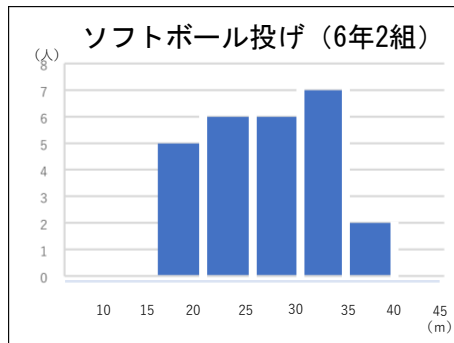
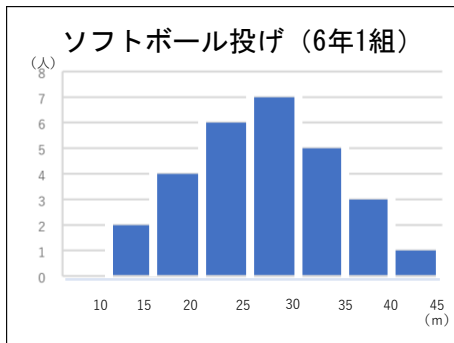
第5時の評価規準と評価方法

（ねらい・学習活動：データの特徴や傾向に着目し、問題の結論について判断し、伝え合う。）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目的に応じてデータを収集したり適切な手段を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を知っている。 （○ノート分析）	目的に応じてデータを集めて分類・整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断しているとともに、その妥当性について批判的に考察している。 （○行動観察・ノート分析）	データを収集したり分析したりした過程を振り返り、よりよい表現や結論の出し方を考えようとしている。 （○行動観察・ノート分析）

※指導に生かす評価を行う代表的な機会については「・」を、その中で特に学級全員の児童の学習状況について、総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会には「○」を付けている。

【学習問題】3クラスのソフトボール投げのヒストグラムなどを比べて、どの組の記録がよいといえるのかを考えよう。



2組の記録がいちばんいいんじゃないかな。だって、中央値をみると、クラスの半分以上が27m以上投げているよ。それに、最頻値だって、2組がいちばんいいよ。



でも、35m以上投げている人がいちばん多いのは3組だし、あと、平均値がいちばんよかったのも3組だから、3組の記録がいちばんいいんじゃないかな。

上の子どもたちのように、代表値等で考察しながら、資料の特徴について説明している姿を評価していきます。また、前時までに作成した度数分布表やヒストグラム等を使って、資料の特徴について考察しているノートやワークシートを評価資料とします。

このように評価するためには、本時の授業において、既習事項は何なのか、これまでの学習をどのように活用することができるのか、また、新たな問題を見いだすことができるのか等を考え、上のような子どもたちの考えが表れるような授業づくりをすることが大切です。働かせる数学的な見方・考え方が何かを考え、数学的活動の充実を図りましょう。

学習評価は、児童生徒にどんな力が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、教師が、指導の改善を図るとともに、児童生徒が、自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが大切だよ。

